

第12回アジア・オセアニア核医学会 第7回アジア核医学技術学会 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会 議 名 : (和文) 第12回アジア・オセアニア核医学会学術会議
第7回アジア核医学技術学会国際会議
(英文) The 12th Asia Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology
(略称: AOCNMB2017)
The 7th Annual International Conference of the Asian Society of
Nuclear Medicine Technology
(略称: The 7th ASNMT)
- (2) 報 告 者 : 第12回アジア・オセアニア核医学会学術会議 会長 井上 登美夫
- (3) 主 催 : 一般社団法人日本核医学会、特定非営利活動法人日本核医学技術学会
日本学術会議
- (4) 開 催 期 間 : 2017年10月5日(木)～10月7日(土) [3日間]
- (5) 開 催 場 所 : 横浜国際平和会議場 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- (6) 参 加 状 況 : 39ヵ国/地域・2,451人 (国外319人、国内2,132人)

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯:
第12回アジア・オセアニア核医学会は、アジア・オセアニア核医学会(Asia and Oceania Federation of Nuclear Medicine and Biology)が開催する国際会議であり、1976年の第1回から当会議で12回を迎える。日本での開催は、京都で行われた第6回(1996年)以来、21年振り、2回目の開催となる。2012年にイランで開催されたアジア・オセアニア核医学会において、日本はその学術レベル・施設数・機器導入数・専門医数でアジア・オセアニアを代表する国であるため、インド・フィリピン・インドネシア等の多くの国から日本開催の推薦を受けた。これを受け、日本核医学会は本会を横浜にて主催することを決定した。また第7回アジア核医学技術学会は、アジア核医学技術学会(The Asian Society of Nuclear Medicine Technology)が開催する国際会議であり、2011年の第1回から当会議で7回目を迎える。日本での開催は、大阪で開催された第4回(2014年)以来、3年振り、3回目の開催となる。第4回の当会議において構成国である韓国ならびに台湾の承認を得て日本核医学技術学会は本会を横浜にて主催することを決定した。
- (2) 会議開催の意義・成果:
本会議は、アジア・オセアニア地域の核医学に関する学術発表を通じて、核医学の研究・教育・診療の向上を図り、日本による新興国への教育も含めて、広く各国の国際的な連携を強化することを目的としている。核医学は、原子が持つエネルギーを医療に活用する学問である。古くは甲状腺疾患の診断と治療に放射性ヨウ素を用いることに始まり、微量物質の測定や、骨・腫瘍・心臓・脳などの全身にわたる画像検査を経て、現在の医療には欠かせない領

域となっている。

病院に勤務する医師・診療放射線技師・看護師・薬剤師・医学物理士などの多くの職種は、核医学分野で連携・協力のもと、患者の立場に立った良い医療を提供している。さらに、撮影装置の開発にかかわる技術者や、放射線薬剤を開発する化学者も含め、多くの分野・職種にとって、核医学研究の発展性は大きい。

(3) 当会議における主な議題（テーマ）：

この度の第12回アジア・オセアニア核医学会および第7回アジア核医学技術学会では、メインテーマとして「Connecting people for bright future of Asia-Oceania nuclear medicine」（和文テーマ「核医学の明るい未来に向けて」）を掲げ、これらの分子イメージングおよび内用療法の分野を中心に、研究発表と討論が行われた。また、主要題目としては、がん細胞の様々な活動状態を対象として画像化する分子イメージング技術について、および、全身に広がったがん細胞に対して作用し、寿命を延長することも可能な放射性物質を投与する内用療法について、の2つとした。

(4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割：

本会議は、多くの方々を対象として開催されたが、さらに今回、第57回日本核医学会学術総会および第37回日本核医学技術学会総会との共催が決定したことで、我が国での核医学診療による医療への貢献をアジア・オセアニア地域の研究者に広くアピールし、多くの研究者の参画を促す絶好の機会となった。また、諸外国の研究者との交流は、我が国の核医学に関する研究を一層発展させる契機となり、本会議を通じて得られる研究や人材交流の成果を、日々の診療にも役立て、より有益な核医学診断・治療を提供することで、社会に還元することも今後は期待できる。また、市民公開講座を行ったことにより、日本人科学者のもたらした成果について、社会に還元し、科学に関する一般社会の興味を大いに高めることにも貢献した。

次回会議への動き：

- ・2019年には、中央アジア、中東、オセアニアを含むアジア・オセアニア核医学会を上海にて開催予定、またこれまで数年に一度の開催としていたが、2021年からは毎年開催される予定。

- ・第8回アジア核医学技術学会を SEOUL (KOREA) Gyeong-Woon NOH にて開催予定。

(5) 当会議開催中の模様：

今回は第57回日本核医学会学術総会、第37回日本核医学技術学会総会学術大会、第12回アジア・オセアニア核医学会学術会議、第7回アジア核医学技術学会国際会議の4つの学会が合同開催されており、各国より多くの参加者が一同に会す、大変貴重な機会となった。

3 市民公開講座結果概要

(1) 開催日時：2017年10月7日（土）14：00～16：00

(2) 開催場所：横浜国際平和会議場 パシフィコ横浜 第3会場（会議センター3F 301）

(3) 主なテーマ、サブテーマ：「教えて！宇宙で活動する技術、放射線が見せる世界」

(4) 参加者数、参加者の構成：参加者数：230人

（うち184名：横浜市内在住または在学の小学生が対象。参加児童1名につき同伴保護者1名まで。）

(5) 開催の意義：火星で活動するにはどうしたらいいのか、病院で利用される放射線とは何か、などについて知ることのできる小学生向けのプログラムを実施した。宇宙科学や放射線医学についての専門家から、話を直接聞くことができる、普段の生活ではなかなか体験することのできない、参加者にとって貴重な機会であり、また、知見を広め、宇宙科学や放射線医学に対し、年齢の低い段階から身近に感じるきっかけにもなった。未来ある小学生たちの、将来の方向性に影響を与えた可能性が高く、当講座の意義は大きい。

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

まず第一に、わかりやすく宇宙や放射線のことを参加者に伝えることを心がけた。結果、宇宙科学や放射線医学に関する興味を大いに高める良い機会となった。小学生全員にアンサーパッドを配布し、演者の出すクイズに回答すると、その場で回答の選択状況が映写される方法を用いた。

最初、横浜国立大学大学院環境情報研究院教授の上野誠也先生が、「宇宙で活動するための技術 ～2040年火星探査の旅～」をテーマに講演を行った。火星到着まで時間や平均気温などをクイズで出題した。回答状況の表示があると、参加者からは歓声があがり、会場は大いに盛り上がった。化学推進ロケット燃料の工夫、無人の探査活の紹介、過酷な宇宙環境から人間を守っている宇宙服の大切さなどが、わかりやすく説明された。約30分の講演後には、参加者から多くの質問が出て、関心の高さがあらわれていた。

その後、横浜市立大学附属病院の杉浦円医師と尾川松義技師より、「“放射線”の使い方 ～病院編～」 「画像検査でアレコレ見てみよう！」をテーマに講演が行われた。それぞれの内容を融合させながら、進行した。放射線科医の立場から、病院での放射線は主に、画像診断・放射線治療・核医学診療で使われていることや、エックス線の特徴などが説明された。診療放射線技師としては、病院で使われる様々な医療機器や、エックス線を体にあてることでどのようなことがわかるか、などが説明された。クイズでは、ノーベル賞受賞者や、昆虫や果物に放射線をあてた場合の出題があり、特に参加者の興味を引いていた。講演後には、演者も予想しないような核医学の命名についての質問もあった。

小学生とは思えない高度な質問や、事前勉強に基づく思慮深い洞察による質問など、多くの質疑応答が交わされた。市民講座終了後にも、各演者に追加質問をする列が長くでき、聴衆の興味・関心をひいた様子が伝わった。

(7) その他：終了後アンケート結果

楽しを感じたという満足度は92%だった。コメント欄には下記記載(全て)があった。

- ・放射線ってすごいな。もっと活用してほしいと思いました！
- ・放射線は体に悪いものだと思っていたけれどたくさんの人の役に立っているのですごいと思いました。放射線が病気を治すなんて知りませんでした。
- ・3人の先生のお話がとても楽しく分かりやすかったです！また機会があれば参加したいです。
- ・放射線へのイメージが変わった。

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

今回、4つの学会を合同で開催するという本会議のアジア社会での意義は大きく、こうした中、日本学術会議と共同主催したことにより、本国際会議においては多大な支援をいただき、その質をさらに高め、本邦の核医学関連学会では過去最高数となった参加者にとっても、大変有意義な会議となったことを確信している。

また、最近10年間で急速な発展を遂げているアジアの核医学であるが、多くの国・地域からの参加者もあり、核医学分野のネットワークをより一層強固なものにするため、日本とアジアの核医学関係者が交流・議論を深め、国・職域を超えて人々が繋がる学会になったと考えられる。当初からの大きな目標は達成できたはずである。

最後に、日本政府の支援により、日本における当該分野の今後の発展と、進歩への期待が一層高まる大変良い機会となったことは極めて重要であり、ここに感謝申し上げる。

【当日の様子】 <写真添付>



以上